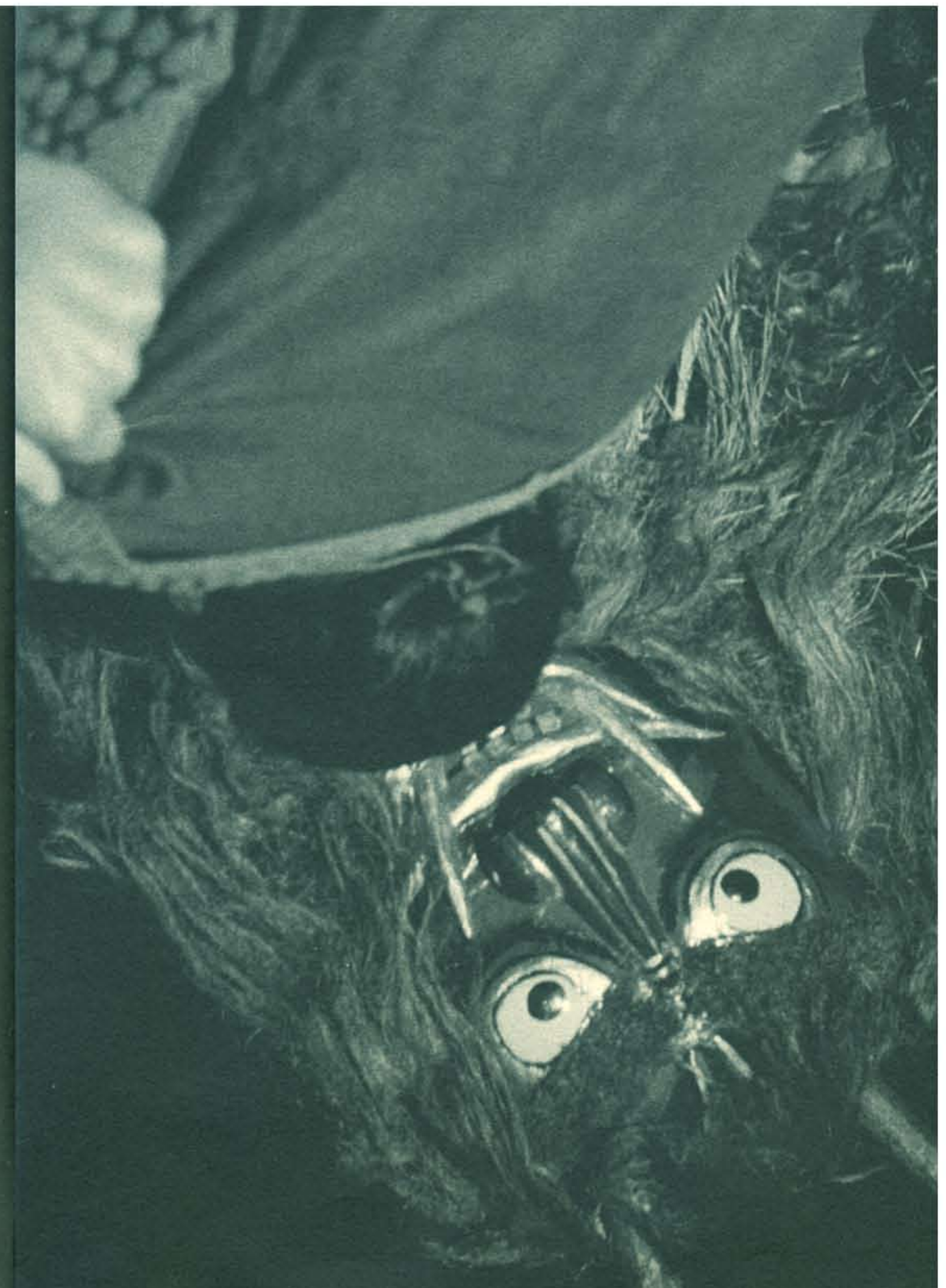
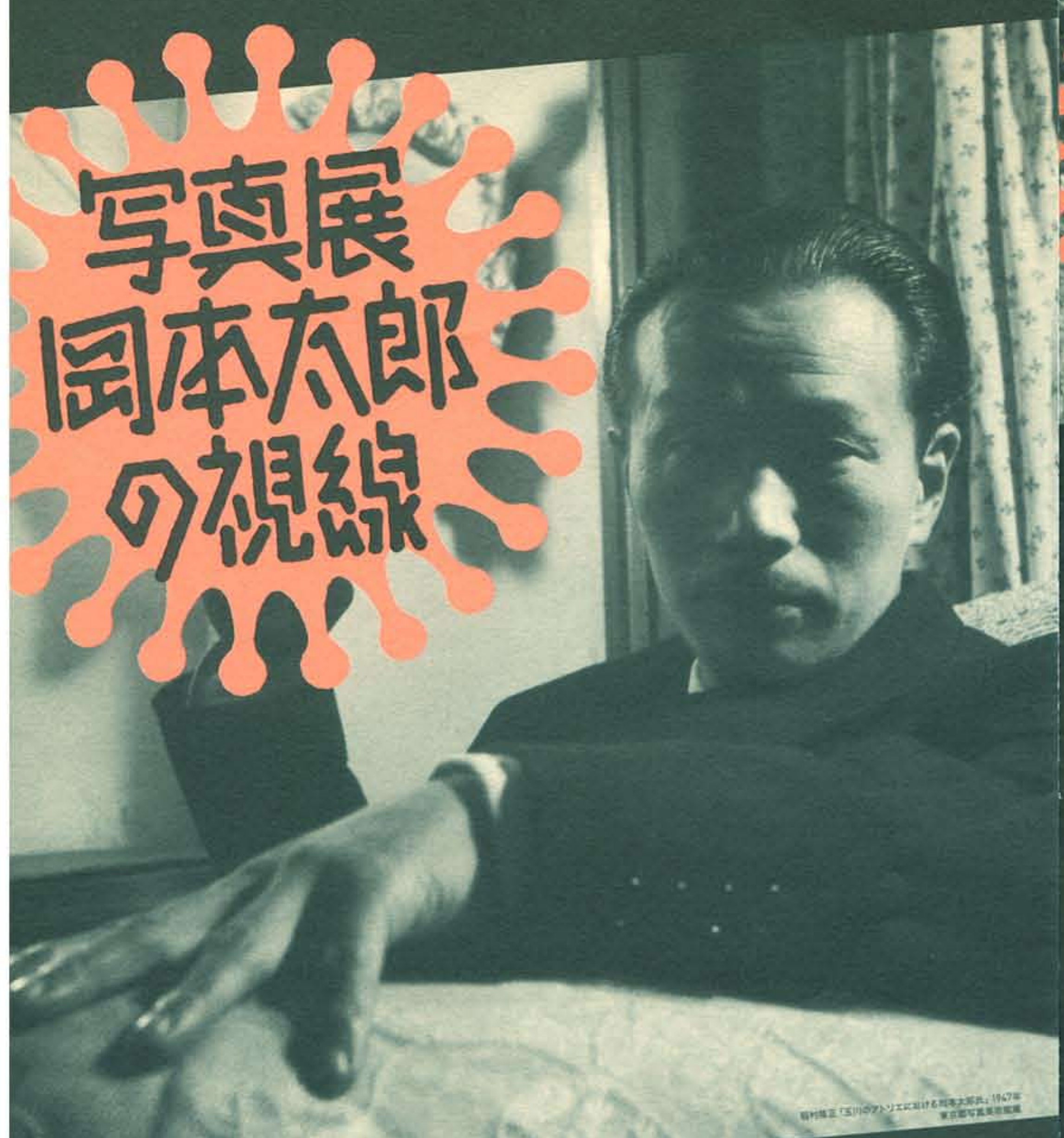
写真は生活そのもの、
人間自体に迫るための媒体であるという使い方が望ましい。

岡本太郎「写真収集の趣旨」『世界を支える無名の人びと』(日本万国博覧会協会／1970年9月)より

幸いなことにカメラがあった。
私たちは彼の見たもの、その視線、対象そのものを、
いま、追いかけて見ることができる。

岡本太郎・撮影 岡本敏子・編『岡本太郎の沖縄』(日本放送出版協会／2000年7月)より





写真展 岡本太郎の視線

Photograph Exhibition:
Through the Eyes of Taro Okamoto

2005年12月24日(土)～2006年2月18日(土)

東京都写真美術館(恵比寿ガーデンプレイス内) 2階展示室 ✺ 10:00～18:00(木・金曜日は20:00まで／入館は閉館の30分前まで)

年始特別開館(1月2日～4日まで)は11:00～18:00／休館日は祝日を除く月曜日、月曜が祝日の場合は翌日火曜日、および12月29日から1月1日。ただし、1月3日(火)は開館

観覧料：一般 1000(800)円／学生 800(640)円／中高生・65歳以上 600(480)円
●(　)内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会
●小学生以下、および障害をお持ちの方とその介護者は無料
●第3水曜日は65歳以上無料

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography

写真展 岡本太郎の視線

一人の固有名詞を超え、「昭和」、「高度経済成長」、「爆発」とさまざまな言葉と結びつき、現在の人々へも力強い精神的影響を与える芸術家・岡本太郎(1911-96)。

彼は1950年代から60年代の日本列島を取材しました。時に原初的で野太く、あるいは現代も構築し続けるべき「伝統」として、日本と日本人の姿をギロリとした視線に映し、ギリギリッとした写真に収め、文章に添えて発表したのです。

岡本太郎(20歳代)は1930年代をパリで過ごしました。ここでブラッサイと出会い、『夜のパリ』の撮影に立会うなど深い友情を結びます。そして、多くの写真家と交流しました。この時、岡本は写真を使って新たな試みに取り組む人々を知ったのです。やがて帰国した後、1950年代からはグラビア写真紀行「藝術風土記」を『藝術新潮』に発表するなど、写真を取り入れた文章を積極的に発表します。同時に土門拳、渡辺義雄ら写真家たちと、玄人でも素人でもない立場から対談や批評を繰り広げるのです。

本展では、岡本太郎がパリ時代にかかわった写真家の作品から彼の写真のルーツを探り、雑誌・著作へ発表した写真、拡大したコンタクトプリントから視線をたどります。そして、彼の写真にまつわる言説や資料、藤阪新吾＋高木哲によるインスタレーション《恋愛》など、現代の視点をも織り交ぜて、岡本太郎と「写真」の関わりをつまびらかにします。

撮影者不詳
「(神戸港から箱根丸で出発した際の家族写真)」
1929年12月5日

ブラッサイ
「ロシアンビリヤードで遊ぶ女性、モンマルトルのロシュシュアール大通り」
1933年 東京都写真美術館蔵

上：撮影者不詳「(カメラを持つ岡本太郎)」(1958年7月5日撮影)
右：岡本太郎がなまはげ撮影時(1957年2月12日)のコンタクトプリントより
●所蔵表記のないものはすべて川崎市岡本太郎美術館蔵

写真展 岡本太郎の視線 2005年12月24日(土)～2006年2月18日(土)

東京都写真美術館(恵比寿ガーデンプレイス内) 2階展示室 ✺ 10:00～18:00(木・金曜日は20:00まで)

●年始特別開館(1月2日～4日まで)は11:00～18:00
入館は閉館の30分前まで。休館日は祝日を除く月曜日、月曜が祝日の場合は翌日火曜日、および12月29日から1月1日。ただし、1月3日(火)は開館

主催：(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
協力：(財)岡本太郎記念現代芸術振興財団／岡本太郎記念館／川崎市岡本太郎美術館 協賛：花王株式会社／株式会社写真弘社

観覧料：一般 1000(800)円／学生 800(640)円／中高生・65歳以上 600(480)円
●(　)内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会
●小学生以下、および障害をお持ちの方とその介護者は無料
●第3水曜日は65歳以上無料

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
東京都目黒区三田1-13-3
電話：03(3280)0099
http://www.syabi.com

〔交通機関〕
■JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。
■当館には専用の駐車場はございません。お車での来館の際は近隣の駐車場をご利用下さい。

写真展 岡本太郎の視線 2005年12月24日(土)～2006年2月18日(土)

東京都写真美術館